

生物多様性横浜行動計画（ヨコハマbプラン） 3 年（平成 26～28 年度）の評価と課題

生物多様性基本法に基づく地域戦略である「生物多様性横浜行動計画（ヨコハマbプラン）」は平成23年4月に策定・公表し、平成27年1月に改定しました。2025年度（平成37年度）を目標年度とし、将来像を「身近に自然や生き物を感じ、楽しむことができる豊かな暮らし」として定めています。この「将来像」を実現するため施策として、「重点アピール」「取組方針」及び2017年度（平成29年度）までの「具体的取組と目標」から構成されています。

改定から3年余りが経過し、「具体的取組と目標」について最終年度を迎えたので、これまでの取組について評価と課題をまとめました。

取組方針1 普及啓発 ～誰もが都市生活のなかで、自然や生き物に親しみ、実践できる取組をすすめます～

- イベントや環境教育講座等の開催をはじめ、自然や生き物への理解を深め、環境行動につなげるきっかけづくりが、着実に進みました。また、活動団体・企業への支援や、連携したプログラムの実施等により、様々な主体による環境活動の取組の活性化も進みつつあります。
- 一方、「環境に関する市民意識調査」結果では、生物多様性の認知度は、40%台を推移しています。また、「関心のある環境問題や環境活動」として生物多様性を挙げる市民の20%前後にとどまっており、地球温暖化や3Rの推進と比較すると依然低い状況といえます。
- 今後も、市民、企業、そして子どもたちに理解と取組の輪をひろげるため、継続的かつ効果的に普及啓発の取組を進める必要があります。特に、自分たちの身近な生活に関わりがあることを伝えることが大切です。

【主な取組成果】

- ・ イベント等…「知ろう！伝えよう！生きものつながりキャンペーン」開催、区民祭りとの連携、スポーツチームと協力した普及啓発 等
- ・ 環境教育講座等…環境教育出前講座（延べ24,627人）、農体験教室（270回）、動物園での環境教育事業（1,088件）等
- ・ 活動団体への支援等…森づくり活動団体への支援（延べ107団体）、横浜環境活動賞（39者）等

取組方針2 保全・再生・創造 ～地域の特性に応じた保全・再生・創造の取組をすすめます～

- 横浜みどりアップ計画を中心とした樹林地や農地の保全・再生や、市街地での新たな緑の創出が進んだことにより、多様な自然環境や生き物の生育・生息環境の保全が進みました。
- 河川や水辺でも、生物多様性に配慮した保全・再生の取組が展開され、良好な水辺環境づくりが進んでいます。
- 動物園、繁殖センターでは、国内外の機関と連携しながら希少種の保全・繁殖の取組を進めており、種の多様性の保全に貢献しています。
- 今後も、生き物にとって大切な環境を後世につなげるため、横浜みどりアップ計画等と連携した保全・再生・創造の取組を継続する必要があります。また、多様な種を保全するため、動物園による、希少種の保護・繁殖の取組も続けていく必要があります。これらの保全・再生・創造の取組の意義や成果を伝え、地域の身近な環境に関心を持っていただくことも大切です。

【主な取組成果】

- ・ 自然、生物生息環境の保全…樹林地（指定266.6ha、買取り67.0ha）、水田保全（120.8ha）、「瀬上市民の森保全管理計画（瀬上池集水域）」や「アユが遡上する帷子川アクションプラン」策定 等
- ・ 新たな緑の創出…地域が主体となった緑化（35地域）、都心臨海部での緑花（37か所） 等
- ・ 希少種の保全・繁殖…市内産カエルやニホンライチョウ近縁種の飼育の繁殖技術研究、国内産希少種ミゾゴイの国内初繁殖成功 等

取組方針3 しゅくみづくり ～保全や評価などに取組むしゅくみづくりをすすめます～

- 生物調査の継続的な実施により、生物生息状況等のデータ蓄積が進みました。なかでも、小学生による生き物調査は、子どもたちの自然体験の機会を増やし、楽しみながら学ぶ効果も発揮しています。
- 地域特性に応じた保全・再生・創造の方策を検討するため、産学官民により評価手法の検討を進めています。
- 今後も、本市の自然環境を把握し施策に活用するため、生き物調査を継続していくとともに、企業や大学・研究機関等との連携を進めていく必要があります。また、これまでも実施してきた子どもたちが生き物調査に参加する取組に代表されるように、市民・企業・学校等の主体的な活動へとつなげることも大切です。

【主な取組成果】

- ・生物調査…生物多様性モニタリング調査（陸域生物調査、水域生物調査等）、
こども「いきいき」生き物調査（延べ約490校、延べ35,000人超の児童が参加）等
- ・地域特性に応じた保全等の検討…産学民官連携による研究会

取組方針4 まちづくりと経済活動 ～生物多様性に貢献するまちづくりや経済活動の支援をすすめます～

- みなとみらい21地区のまちづくりや、海づくり活動等、市民団体・企業等と連携した取組により、豊かな環境のあるまちづくりを進めています。
- 小学生へのエコ活動の呼びかけや地産地消の取組など、企業等による生物多様性分野への連携・参加が、広がりつつあります。
- 今後も、横浜の都市の魅力を高めるため、豊かな水・緑環境のあるまちづくりを継続していく必要があります。また、企業との連携を推進し、環境分野での新たなビジネスモデル構築や、環境分野の取組の促進につなげることも、続けていく必要があります。まちづくりや経済活動の取組を通して、身近なことから生物多様性に配慮した社会システムやライフスタイルへの転換につなげられることに、気づいてもらうことも大切です。

【主な取組成果】

- ・まちづくり…みなとみらい2050プロジェクト（みなとみらい21地区を中心に推進）、
市民団体・企業と連携した海づくり（京浜臨海部、都心臨海部、
金沢区野島海岸周辺、金沢区白帆地区）等
- ・企業による多様性分野への連携・参加…「こども『エコ活。』大作戦！」開催、
企業等と連携した地産地消（25件）